



SSCA
Shibuya Smart City Association

シブヤ・スマートシティ推進機構



第 2.0 版
2023 年 6 月 30 日

シブヤ・スマートシティ実行計画

目次

第 1 章	地域名及び対象区域	2
1.1	基本事項	2
1.2	地域名	2
1.3	対象区域	2
1.4	地域特性	3
第 2 章	区域の課題・目標	7
2.1	区域の課題	7
2.2	区域の目標	9
第 3 章	推進体制	11
3.1	SSCA の推進体制	11
3.2	WG(ワーキンググループ)全体像	12
3.3	WG(ワーキンググループ)参加会員	13
第 4 章	事業概要	15
4.1	事業概要	15
4.2	個別事業別概要及び事業実施体制	18
第 5 章	スマートシティ実装に向けたロードマップ	22
5.1	ロードマップ	22
第 6 章	持続可能な取組とするための方針	23
6.1	持続可能な取組とするための方針	23
第 7 章	その他必要な事項	24
7.1	データ連携基盤との連携	24
7.2	他団体による取組みとの連携	25
7.3	法令・ルール等の見直し	25
変更履歴		26

第1章 地域名及び対象区域

1.1 基本事項

事業の名称	Fun コンテンツの作成 & 基盤データ利活用事業
事業主体の名称	一般社団法人シブヤ・スマートシティ推進機構
事業主体の構成員	株式会社 NTT ドコモ 東急不動産株式会社 株式会社 AOI Pro. イグニション・ポイント株式会社 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 トランス株式会社
実行計画の対象期間	概ね 3 年（令和 5 年～7 年）

1.2 地域名

東京都渋谷区

1.3 対象区域

渋谷区は、東京都 23 区の西南に位置しており、都全体から見れば東に片寄り、特別区区域の西南部の中心となっている。広さは 15.11 平方キロメートルで、中心部に明治神宮・代々木公園という大きな緑地があり、新宿御苑の一部を加えると、緑被率 22.8%¹と、全体の 5 分の 1 程度を占めている。シブヤ・スマートシティ推進機構（以下、「SSCA」という）は、渋谷区全域を対象エリアとしている。

¹ 渋谷区環境基本計画 2023

<位置図>²



1.4 地域特性

渋谷区は、個性的な魅力をもったエリアが集約し、それぞれが時代やニーズの変化に応じて進化を続けている。常にアップデートされていく豊かな地域特性は、住民だけでなく、様々な企業や商店、国内外からの来街者を数多く惹きつけている。

渋谷区のエリアは、大きく「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域」「代々木上原・代々木八幡・参宮橋地域」「代々木・千駄ヶ谷・原宿・神宮前地域」「渋谷駅周辺地域」「代官山・恵比寿・広尾地域」の5地域に分かれる。

<渋谷区のエリアと特性>



<笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域>

当地域の特性として大半が住宅地であり、生活利便性が高く、通称「ササハタハツ」と呼称される。笹塚、幡ヶ谷、初台駅とも近年は駅乗降客数が増加しているが、特に初台駅は増加が著しく、拠点性が向上している。一方、狭あい道路や木造建築物が密集しているエリアが広範囲に分布していることによる防災上の問題が課題となっている。

こうした地域性や課題背景などを前提として、玉川上水旧水路緑道をはじめ、身近に自然に触れられる機会が多いササハタハツエリアにおいて、環境との共生、災害や非日常時への対応を日常時から考慮し、様々な変化に強くしなやかに対応し、社会・文化・経済活動を続けられるまちづくりに向け、渋谷区や東急不動産などが中心となってまちづくりのビジョン策定などを推進している。

<笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域の様子>³⁴



<代々木上原・代々木八幡・参宮橋地域>

当地域の特性として、戸建て住宅を中心としつつ、近年はマンション等の立地が増加している。駅周辺には、個性的な飲食店や店舗も見られる。特に西参道エリアは、明治神宮に繋がる緑豊かな街並みを擁している。

³ (左図) ササハタハツ・MACHI LAB サイト (<https://www.sasahatahatsu.jp/vision/>) より引用

⁴ (右図) 「第7回ササハタハツ会議報告資料」より引用

<代々木上原・代々木八幡・参宮橋地域の様子>⁵⁶



<代々木・千駄ヶ谷・原宿・神宮前地域>

当地域の特性として、明治神宮・代々木公園・新宿御苑の一部が立地し、緑地に恵まれた地域となる。一方、原宿駅周辺をはじめ、ファッションや渋谷区らしい生活文化を創造・発信しているエリアでもある。

<代々木・千駄ヶ谷・原宿・神宮前地域の様子>⁷



⁵ (左図) 「西参道高架下利活用基本計画」より引用(整備イメージ)

⁶ (右図) 東京都公園協会 HP (<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index039.html>)より引用

⁷ 「神宮前一・三・四丁目地区 地区計画」より引用。左から竹下通り沿道地区、旧渋谷川周辺地区、神宮前三・四丁目住宅地区

<渋谷駅周辺地域>

当地域の特性として、特に渋谷駅中心地区で駅施設の機能更新と再編を契機とした開発の連鎖により、大きな変貌を遂げつつある。渋谷駅中心地区と渋谷駅周辺が連携した「渋谷らしさ」の発展と継承、将来へ向けた持続可能なまちづくりが求められており、SSCA における実証事業の多くが当地域を中心に展開される予定である。

<渋谷駅周辺地域の様子>⁸⁹

<代官山・恵比寿・広尾地域>

当地域の特性として、個性的な商業地があり、近年も拠点としての性格を強めつつある。特に代官山は、住まい、お店、オフィスがバランスよく共存し、品格ある街並みと、都市的な魅力をそなえた街となっている。

<代官山・恵比寿・広尾地域の様子>¹⁰

⁸（左図）「渋谷駅周辺まちづくりビジョン【概要版】」より引用

⁹（右図）国家戦略特区「第36回東京圏国家戦略特別区域会議 東京都提出資料」より引用

¹⁰「代官山地区 地区計画」より引用

第2章 区域の課題・目標

2.1 区域の課題

渋谷区人口ビジョンによれば、区では現状、人口増の傾向にあるものの、2045 年をピークにその後は人口減少に転じると見込まれている。属性別では、年少人口や生産年齢人口は今後 5～10 年間でピークを迎え、その後減少に転じる一方、高齢者人口は増加し続け、2050 年には高齢化率は 3 割を超えると見込まれている。この他、合計特殊出生率の下降傾向や社会減傾向も鑑みた際、今後も持続可能な行政運営を行う上では、将来の年少人口、生産年齢人口の減少を可能な限り抑制し、区域内外の人を惹きつけ、定住人口増へ繋げていく魅力ある地域づくりが不可欠である。¹¹

また、100 年に 1 度と呼ばれる再開発により、渋谷区の駅周辺は大きく様変わりし、新たなオフィスや商業施設等を中心に来街者の増加が予想されるところ、来街者に関しては駅周辺に留まることなく、これまで以上に移動のしやすさを確保し、回遊性を向上するよう魅力的で快適な空間づくりが求められている。

それと同時に、災害時に大量に発生する帰宅困難者の問題や、テロ、犯罪等の問題など、街が機能不全に陥るリスクも高まっており、危機管理対策などを含め、防災・防犯対策の一層の充実も求められている。

区民はもとより多くの来街者が集まる都市の特性を活かし、渋谷民が交流し街の魅力をさらに高めるような取組みを如何に果たしていくかが当地域の課題である。

¹¹ 渋谷区人口ビジョン（令和 2 年度改定版）

＜人口減少・少子化に関わる特徴・課題と渋谷区が目指すべき方向性¹²⁾＞

項目	特徴・課題	将来の方向性
総人口	● 2045 年をピークに、その後は減少に転じる。 ● 年少人口や生産年齢人口は今後 5 ～ 10 年間でピークを迎え、その後は減少に転じる。 ● 高齢者人口は増加し続け、2050 年には高齢化率は 3 割を超える。 ● 世帯平均人口は減少傾向で、単独世帯が 6 割を超える。	どの年代になっても区民にとって質の高い暮らしができるよう、あらゆる人が暮らしやすく、安心して豊かな人生を歩み続けることができるまちづくりを推進する。 地域がまちづくりに参画し、世代を超えてつながり、支え合えるまちづくりを目指す。
出生	● 合計特殊出生率は増加しているものの、近年は下降傾向である。 ● 出生と密接な関係にある結婚については、渋谷区の配偶者を持つ割合は、都全体と比較して低く、さらに未婚率が高い。特に女性における未婚傾向は顕著である。	結婚から出産、子育てに至るまで、トータルで希望をかなえられる、暮らしやすく、働きやすく、子育てしやすいまちづくりを推進し、若年層やファミリー世帯の定住化を図る。 多様性が尊重され、すべての人々が支え合い、どんな人でも自分らしく生きていける、孤立させない街を目指す。
社会移動	● 10 年未満で渋谷区を転出する人が 5 割以上存在し、主に隣接区への移動が多い。 ● 2045 年までは平均して年間 700 人前後の社会移動増が推計される。	世界を惹きつける魅力的な都市として、人々に愛されるコミュニティの空間として、区民が誇りを持って住み続けたいと感じる多様かつ魅力あふれるまちづくりを推進する。 さらにその魅力を区内外に発信し、他道府県からの転入超過が見込めない状況となっても、転出入均衡の維持を図る。

¹²⁾ 同上

2.2 区域の目標

上記地域課題を前提に、本スマートシティにおいては、様々なサービス展開を通じて、「個」の幸せと連動して「地域」の魅力が増幅していく Well Being とシティプライドの溢れる街を志向する。

そのため、区域に展開される「サービス数」をアウトプット指標、区民の「Well Being とシティプライドの向上」をアウトカム指標と整理し、の2点を KPI として定義するものとする。

<スマートシティの目標(KPI)>

- 区域に展開されるサービス数（アウトプット指標）
 - ✧ SSCA の取組から生まれ、区域に実証・実装されたサービス数
(現状値：0→令和7年度：*今後協議の上、決定)
 - ✓ 測定方法：SSCA で承認されたサービス数

- Well Being とシティプライドの向上¹³（アウトカム指標）
 - ✧ 渋谷に愛着を持っている人の割合（あてはまる）
(現状値：90.1%→令和7年度：*今後協議の上、決定)
 - ✧ 誇りを持っている人の割合（あてはまる）
(現状値：78.7%→令和7年度：*今後協議の上、決定)
 - ✓ 測定方法：区民意識調査等のアンケート調査

¹³ 渋谷区区民意識調査（令和4年度）

渋谷に関わる一人ひとりの
Well-being 向上



シブヤ・スマートシティ推進機構



民

連携・共通化・共有・共創

10

第3章 推進体制

3.1 SSCA の推進体制

本機構は、令和4年11月1日付で設立され、当面、任意団体として以下の実施体制の下、運営を開始している。

大きく役割として、総会、運営委員会、ワーキンググループ、フェローより構成されている。そのなかで、SSCA 全体の運営方針や戦略・計画策定については、会員団体の参画代表者より組成される運営委員会において決定を行い、その内容について、最終的には推進機構全会員より構成される総会にて承認される形態をとっている。

個別の領域単位における活動計画や事業実施、会議運営のほか、必要な予算措置、法令・ルール等の見直しのほか、各団体との連携等に係る提案についてはワーキンググループが担う方式を採用している。

フェローについては、SSCA 全体の運営方針や戦略・計画策定に関わる助言をはじめとして、ワーキンググループにおいて検討される活動計画や事業計画に関わる全般的な助言等を行っている。

なお、本機構は、令和5年度上半に一般社団法人化を見込んでおり、関係団体との連携や事業連携による更なる事業シナジーの創出、投資呼び込みを通じた持続可能なまちづくりの推進に向け、渋谷全体での価値創造に注力するための組織体への昇華を目指す方針である。

<SSCA 推進体制>



（令和5年4月末現在）

3.2 WG(ワーキンググループ)全体像

SSCA では、現在、6つの個別ワーキンググループ及び3つの共通ワーキンググループが存在する。

このうち個別ワーキングでは、「安心・安全」「多様な空間活用」「渋谷カルチャー」「D&I(Diversity & Inclusion)」「ウェルネス×都市生活」及び「環境」から構成される。個別の検討テーマは下記のとおりであるが、いずれも個別テーマカットで検討を進めているものではなく、例えば余剰空間の可視化を通じた商用利用といったテーマを検討する場合、「多様な空間活用」及び「渋谷カルチャー」がワーキンググループの枠を超え協調の上、事業実施を行うことも想定されている。

また、これら個別テーマとは別に「データ利活用」「先端 Tech 実装」「Well-being Research & Design」については共通ワーキングとして組成されている。

これらについては共通ワーキング単体で独立したテーマに沿った実証事業が立つことはその性質上あまり想定されていないものの、それぞれのワーキングで着想を得たテクノロジーやデータ利活用、Well-Being 観点が個別ワーキングにて検討されている事業内容にも還元されることで、当該事業単体はもとより、事業相互間の連携を促進し、ひいては効率的・効果的な事業企画・検討・実証を一気通貫で実現することに資するものと整理している。

<ワーキンググループの全体像>



3.3 WG(ワーキンググループ)参加会員

SSCA の参加企業及び参画WG 一覧は以下のとおりである。なお、令和5年度4月末時点で、74社の参画企業・大学等が入会している。

< 参加企業及び参画 WG 一覧 >

正式名称	A.安心・安全	B.多様な空間活用	C.渋谷カルチャー	D.Diversity & Inclusion	E.ウェルネス×都市生活	F.環境	G.Well Being	H.データ活用	I.先端tech実装
ArchiTwin株式会社		●							
あいあいニッセイ同和損害保険株式会社	●							●	
株式会社AOI Pro.		●	●		●				
旭化成ホームズ株式会社	●				●	●			
株式会社ABEJA	●	●		●	●		●	●	●
アマゾンウェブリービズジャパン合同会社	●	●			●		●	●	●
イグニション・ポイント株式会社		●	●				●		
株式会社インテージ							●	●	
Intelligence Design株式会社	●	●						●	
株式会社ウフル	●							●	
エクシオグループ株式会社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
株式会社Tクシング		●			●		●		
ESRIジャパン株式会社	●							●	
株式会社NTTドコモ								●	●
カルチャー・コンピニエンス・クラブ株式会社		●	●					●	
グーグル合同会社		●						●	
株式会社grasys								●	
株式会社GREENING		●	●		●	●	●		
KDDI株式会社		●	●					●	●
ユーギア株式会社			●					●	
GoPro合同会社		●	●						
サッポロビール株式会社	●								
株式会社JX通信社	●								
株式会社JTB			●						
株式会社GEOTRA								●	
一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント								●	
一般財団法人渋谷区観光協会									
一般社団法人渋谷再開発協会		●						●	
一般社団法人渋谷未来デザイン		●						●	
清水建設株式会社		●						●	
株式会社スポーツズ			●		●				
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート							●		
住友不動産株式会社	●	●	●			●			
セーファー株式会社	●				●		●		●
株式会社セールスフォース・ジャパン								●	
株式会社セブン銀行									
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社		●							●
ソフトバンク株式会社					●	●			
ダイキン工業株式会社								●	●
ダイキンHVACソリューション東京株式会社						●			
大日本印刷株式会社		●	●					●	
株式会社デジタルガレージ								●	●
デジタルハリウッド株式会社		●	●						
株式会社デンソー								●	
東海大学	●	●						●	
東急株式会社	●	●							

正式名称	A. 安心・安全	B. 多様な空間活用	C. 渋谷カルチャー	D. Diversity & Inclusion	E. ウエルネス×都市生活	F. 環境	G. Well Being	H. データ活用	I. 先端tech実装
東急建設株式会社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
東急不動産株式会社		●	●			●			
東京建物株式会社		●	●		●	●			
東京電力パワーグリッド株式会社					●	●		●	
東京都									●
東京理科大学 産学連携機構	●				●				
独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）							●		
株式会社トランス			●						
株式会社NearMe		●	●	●	●	●	●	●	
株式会社JTB建設		●	●			●		●	
日本電気株式会社	●							●	
株式会社パカン									
株式会社博展		●	●			●			
株式会社博報堂			●		●		●		
パナソニック株式会社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Palantir Technologies Japan 株式会社								●	
ヒューリック株式会社		●							
Plug and Play Japan株式会社									●
文化学園大学						●			
Whole Earth Foundation Japan株式会社									
三井物産株式会社		●				●	●	●	●
三井不動産株式会社	●								
三菱地所株式会社			●						
株式会社ミライト・ワン						●		●	
ミレー株式会社	●	●			●				
ヤフー株式会社								●	
株式会社読売広告社	●	●	●	●	●	●	●	●	●
LINE株式会社		●							
一般社団法人 One Smile Foundation									

*WG に●が付いていない企業・団体は所属 WG 調整中
令和5年4月末日現在

第4章 事業概要

4.1 事業概要

本機構では、個別ワーキングを中心に、以下12のプロジェクトにつき検討を進めており、共通ワーキングはこれらプロジェクトを支える技術視点や指標観点の検討を行っている。

このうち、国土交通省「スマートシティ実装化支援事業」への公募採択を目指している事業については#6及び#7の多様な空間活用に関わる事業である。

<事業一覧>

No	事業名称	事業概要	構成メンバー (★は代表幹事)	WG 属性
1	SHIBUYA USC (Urban サバイバルキャンプ)	- 遊休資産を活用した「Camp」のシチュエーションにおいて、有事における意識・心構えを自分毎化しやすくする。 - エンタメ（アウトドア）を絡めることで、地域・世代を超えた体験・共感の場作りを行う。	日建設計 (★) 読売広告社 (★) 三井不動産	安心・安全
2	シン・R&D サイクル	平時には、休憩・充電～渋谷カルチャーコンテンツを発見できる拠点として、有事には、街中デジタルサイネージの利活用（マネタイズポイント）により、災害時の誘導・案内用途として整備を行う。	パナソニック (★) 東急建設 (★) 東急 Intelligence Design Ignition Point	安心・安全

No	事業名称	事業概要	構成メンバー (★は代表幹事)	WG 属性
3	防災シェアリングマップ	- フェーズフリーで活用できるよう防災拠点や食等のコンテンツを拡充し、日常から楽しく利用でき、街の共助の輪が広がるサービスを提供する。 - そのため、災害時の避難先や備蓄情報、平時では熱中症危険情報などを可視化する。	JX 通信社 (★) ESRI Japan (★) NEC ダイキン工業 Safie	安心・安全
4	4次元トラッシュボックス	- ゴミ箱に人が集まりたくなる仕掛けと、ゴミ箱としての付加価値(収集したごみのアップサイクル)を提供していく。 - ゴミの量の可視化、ゴミ箱マップ・ゴミ回収ルート最適化などを行う。	大日本印刷 (★) 東京建物 (★) 東京理科大学 ミライト・ワン ダイキン工業	環境
5	サステナ・ステーション	- 環境を意識できる『街中の新たなサードプレイス』として、環境対応商品やサービスを体験、学び、発信していく。 - また、エコな低速モビリティのパーク・充電できる拠点として提供することで、ゼロカーボンの回遊都市を実現する。	パナソニック (★) 読売広告社 (★) 東京理科大学 ソフトバンク Intelligence Design	環境
6	Let Me Know 渋谷	Web 等でイベント情報を発信。データ連携基盤や空間活用プラットフォームと連携し、データ連携を通じた多角的なイベント誘導を行う。	NTT ドコモ (★) Ignition Point カルチュア・コンビニエンス・クラブ	多様な空間活用

No	事業名称	事業概要	構成メンバー (★は代表幹事)	WG 属性
7	Shibuya POP Ups	人流や嗜好・行動等各種データに基づくイベントの開催及びイベント業・不動産業等マッチングツールによるイベントの自然創発を目指す。	Aol Pro. (★) トランス 東急不動産	多様な 空間活用
8	リッチマインドプロジェクト	ソーシャルアクションを可視化、体験イベント企画等を通じ、困っている人と少し良いことをしたい人を結び付け、公助コミュニティを形成する。	大日本印刷 (★) 読売広告社 (★) エクシオグループ 東急建設 パナソニック スマートシティ・インスティテュート	D&I
9	IYO SHIBUYA	コロナ等で、渋谷のワーカーや来街者が渋谷を徘徊する理由が減ってきたことを踏まえ、オーディション開催を通じ、渋谷で頑張るアイドル、料理人、アーティスト、お店等を可視化・応援する取り組みにより、渋谷を知る機会を提供する。	東京建物 (★) Ignition Point (★) 渋谷再開発協会 トランス 三菱地所	渋谷カルチャー
10	ネオ商店街	- 渋谷で新しいカルチャーが生まれ続けるよう挑戦できる場の提供・サポートする。 - また新しい発見をしたい来街者に向けて、出店情報等を発信していく。	読売広告社 (★) 東京建物 カルチュア・コンビニエンス・クラブ エクシング 大日本印刷 東急建設 三菱地所 パナソニック エクシオグループ 東京理科大学	渋谷カルチャー

No	事業名称	事業概要	構成メンバー (★は代表幹事)	WG 属性
11	私の『ハッピー』が見つかる	- 渋谷の様々な拠点に、自分と向き合える・今の気持ちを測定できる“マシーン”を設置し、訪れる人がカジュアル・楽しく自分を知る契機を生み出していく。 - ゆくゆくは、おすすめのイベントやスポット、アクション等を提案し、一人ひとりの街との繋がりを創り、人が回遊する街を創っていく。	東京建物 (★) ソフトバンク エクシオグループ 東急建設	ウェルネス×都市生活
12	渋谷 well-tainment	渋谷らしいエンタメ要素を織り込みながら、渋谷に係る人々が自分なりのウェルネスの定義を模索し、心身のウェルネス向上をできる環境を提供する。	読売広告社 (★) 日建設計 ダイキン工業 パナソニック Ignition Point	ウェルネス×都市生活

4.2 個別事業別概要及び事業実施体制

上記 12 プロジェクトのうち、スマートシティ実装化支援事業の対象となる事業は、以下の 2 つ。

- ・ # 6 Let Me Know 渋谷 <空間活用>
- ・ # 7 Shibuya POP Ups <空間活用>

【空間活用 WG】

100年に1度と呼ばれる民間再開発が相次ぐ渋谷では、周辺の魅力あるまちとの接続を強化し、まち全体の回遊性を高めていくことを目指している¹⁵。本WGでは、快適な都市空間や賑わい創出を通じた都市の回遊性向上に向け、来街者や区民が賑わいを認知・参加し、長時間滞在できるためのFunコンテンツ生成や空間活用PF環境整備を図ることで渋谷の「カオス」を再定義する取り組みを行う。

上記の都市の回遊性・長時間滞在を目指すため、人流や嗜好・行動・決済等の各種データや3D都市モデルのデータなど、空間活用に係るデータをPF上で可視化・分析するツールを構築すると共に、最適な賑わいスポットに誘導させるシステム（UI）の構築・実装を目指す。また、ビルの空き部屋等、遊休地となっている渋谷の空間を活用したFunコンテンツを同時に提供、定例化（実装）し、プラットフォームにより誘導させることで、最適な空間活用を実現する。

なお、#6 及び#7 については統合的に実証することで合意されていることから、下記では一体として記載する。

<空間活用 WG 全体での将来像>



¹⁵ 渋谷駅周辺まちづくりビジョン

6 Let Me Know 渋谷

実証ではまず、現在渋谷区やPJT体制事業者が保有するデータで分析可能な来街者の嗜好や行動遷移・滞在時間等の分析及び一般市民への渋谷区の既存イベントやShibuya POP Upsのコンテンツ作成事業でのイベントの情報提供(可視化)を行う。

その上で一般市民の嗜好に合わせた情報を提供することで、滞在者等の行動変容への影響度、コンテンツ提供場所選定等への有益性を検証する。

<Let Me Know 渋谷_事業概要>



7 Shibuya POP Ups

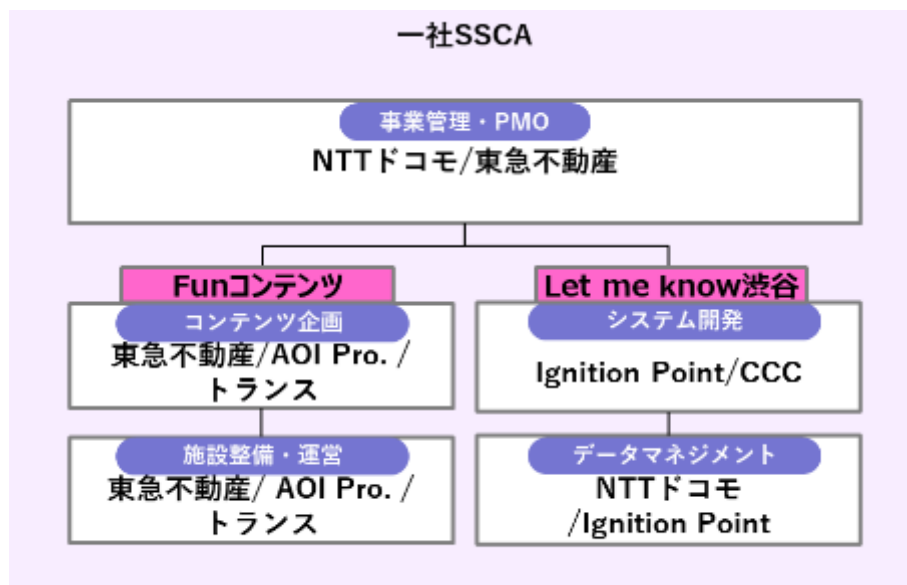
#6の実証期間にて、快適な都市空間や賑わい創出を通じた都市の回遊性向上に向け、人流や嗜好・行動等各種データに基づくイベントを実験的に開催する。

その後、データ連携基盤や3D都市モデルも活用した空間活用プラットフォームと連携したイベント業・不動産業等マッチングツールも構築し、多角的なイベント企画・開催を創発すると共に、イベントでの人々の行動変容の効果検証も見込む。

< Shibuya POP Ups _事業イメージ>



< 空間 WG プロジェクト 組織体制>



第5章 スマートシティ実装に向けたロードマップ

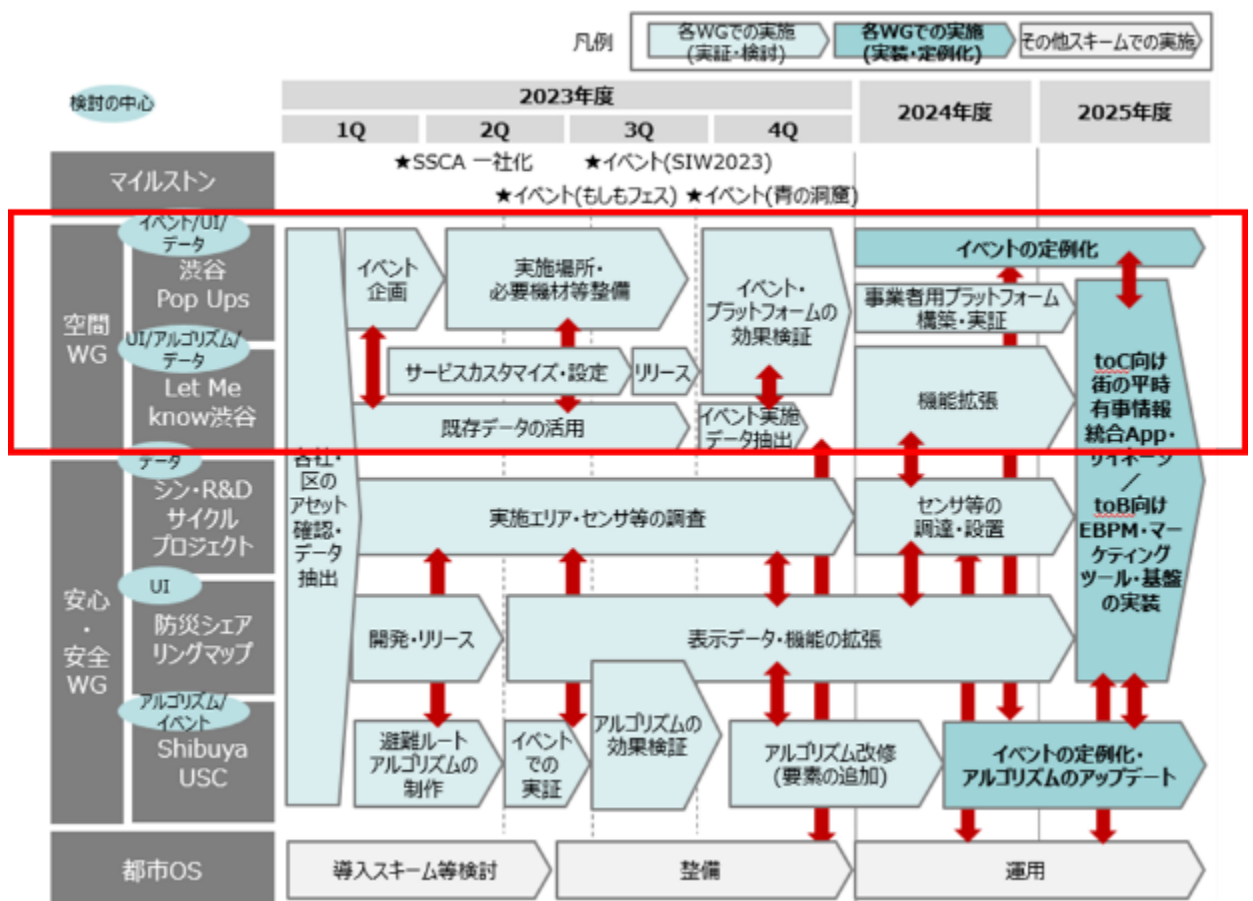
5.1 ロードマップ

本機構において、現状企画が具体化している空間 WG、安心・安全 WG の事業に関わるロードマップについては以下のとおり。

現在実装に向けロードマップ化できているサービスは、街の平時／有事情報を統合・表示する to C 向けアプリ及び関連イベント、to B 向け BI 等を想定しており、2025 年度の実装に向け、2023 年度・2024 年度は各種検討・実証を行う。

推進体制のうち、空間 WG、安心・安全 WG の各プロジェクトにて、アセット（センサー等）・アルゴリズム・UI・イベントの検討を行い、アプリ・BI に表示できるアセット・アルゴリズム・イベントを随時掲載していく。

<スマートシティ実装に向けたロードマップ>



(令和5年4月末時点)

第6章 持続可能な取組とするための方針

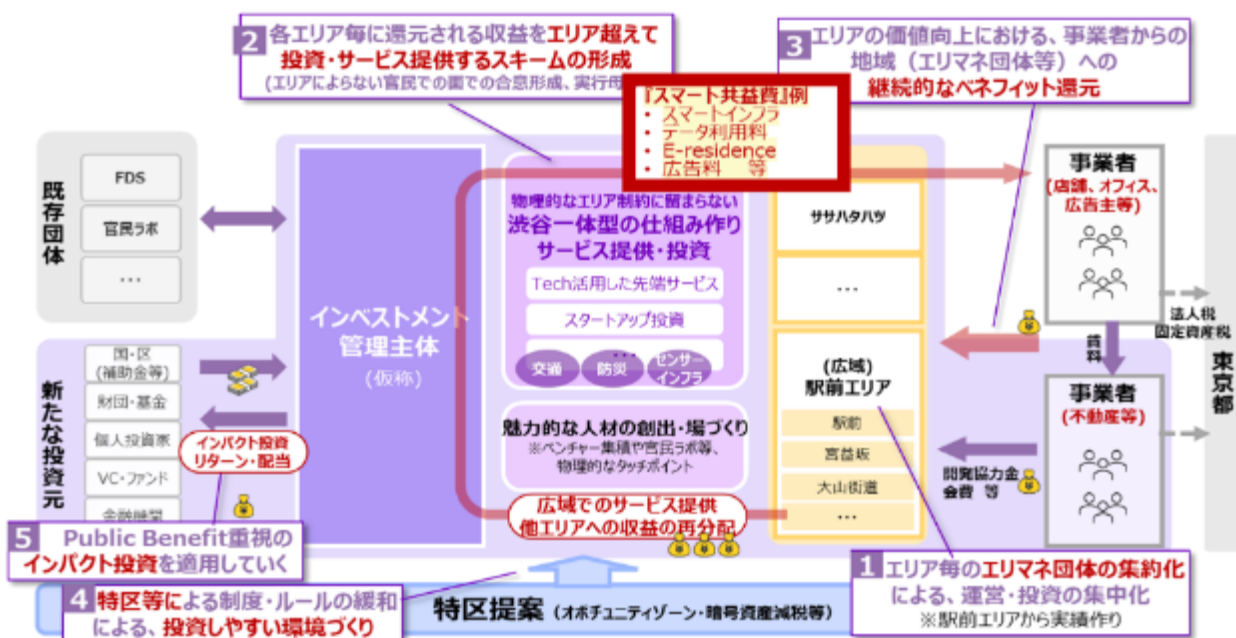
6.1 持続可能な取組とするための方針

事業推進にあたっては、国交省「スマートシティ実装化支援事業」やプロジェクト Plateau を始めとする国や都の補助金等の活用を通じて、データ連携基盤の初期構築や個別サービス企画・実証サービス支援を行う。

その後、運用フェーズに移行する中で、エリア魅力の向上に寄与する仕組み整備やスマートシティインフラ等の提供を通じ、事業運営上の効率化によるコスト低減(下記①)や面的サービス展開による投資拡大(下記②)を見込み、徐々に公的資金からの依存度を低下させていく。

さらには、スマートインフラやデータ利用料、サイネージ広告料など都市のベネフィット利用による共益費収入(下記③)拡大や規制緩和等の政策誘導を通じた更なるサービス拡大(下記④)を通じた、インパクト投資等による外部資金(下記⑤)呼び込みによる域内再投資をサステナブルに実現する「循環型のまちづくり資金スキーム」を構築することで、高度な都市型スマートシティの実現を目指す。

<循環型のまちづくり資金スキーム>



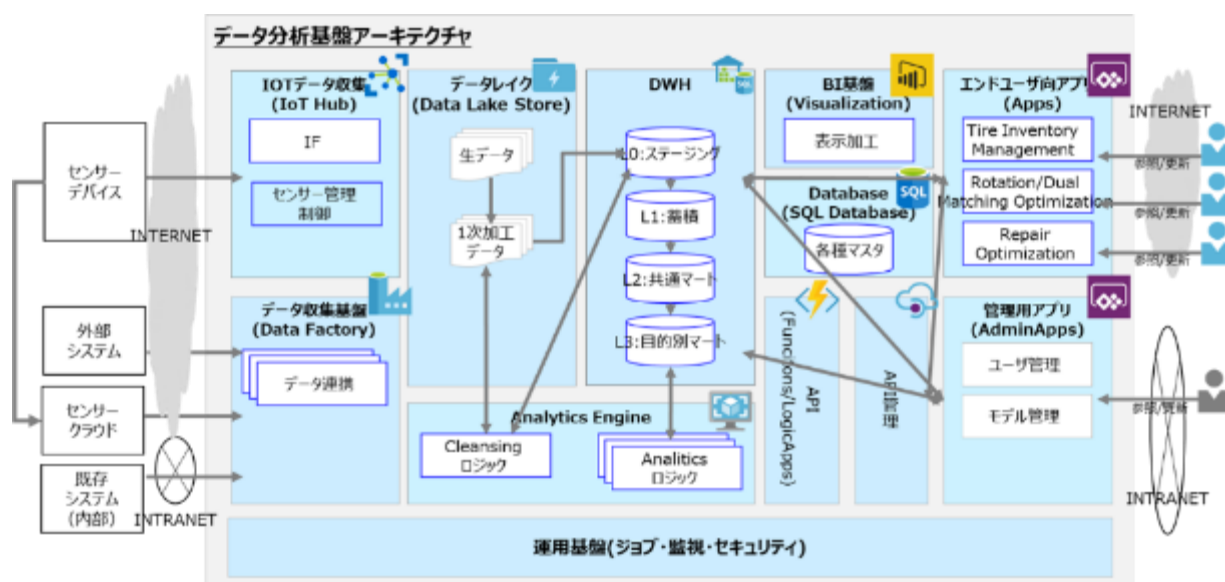
第7章 その他必要な事項

7.1 データ連携基盤との連携

今後、様々なサービスが SSCA より生まれる予定であるが、その際、都市に存在するセンサーデバイスや外部システム等から得られる人流や交通、空間、SNS といった様々なデータを収集・分析し、サービス検討や効果測定、EBPM に基づく施策検討など多様なシーンに活用することが期待される。

こうした観点に立ち、令和 5 年度中に、いわゆる都市 OS と呼称されるデータ連携基盤を構築・運用することを予定しており、リファレンスアーキテクチャにも準拠する形で下記アーキテクチャに基づく要件定義・開発を予定している。

＜データ連携基盤アーキテクチャ＞



7.2 他団体による取組みとの連携

SSCA は既存コンソーシアムとの連携も見据えた形で、効率的・効果的にスマートシティ推進を進めていく。例えば、一般社団法人渋谷未来デザイン及び東京大学先端科学技術研究センターが事務局を担う「渋谷データコンソーシアム」は、渋谷区のスマートシティ化を進めるうえで基礎となるビッグデータやオープンデータを推進することを目的に、専門家とコンソーシアム会議を組成し、ICT ベンダーやネットワーク事業者、サービス事業者などの会員企業とともにプロジェクトを推進しているが、産官学民のデータを掛け合わせ、社会課題の新たな知見やソリューションを創出できる基盤を構築し、渋谷区の行政サービスや社会サービスの開発と提供を目指す点では、SSCA の目的と軌を一にするものであり、相互の取組が二重投資にならないよう、連携を図りながら、スマートシティ推進を図ることで合意している。この他、一般社団法人渋谷地区駐車場対策協議会とも今年度中に、連携協定を締結予定であり、交通対策をはじめとして、そこで得られたデータを都市 DX 等にも活用するなど、スマートシティ推進に向けた協調を図っていく予定である。

7.3 法令・ルール等の見直し

今後、事業化されるサービスの導入にあたっては、様々な法規制・ルールとの適合性が求められる。

例えば、都市の回遊性向上を企図したコンテナやデジタルサイネージ設置を行うにあたり、道路法や都市公園法上の占用許可のほか、消防法、東京都屋外広告物条例等との法令適合性が求められるものと考えており、関係省庁、都などと協議の上、サービス展開を図っていく予定である。

また、必要に応じて国家戦略特区による規制緩和や、サンドボックス制度の活用等についても検討を行い、サービス実証及びルール策定・見直しを両輪で検証していくことも想定している。

変更履歴

日付	版	内容
2023/5/10	1.0	・初版を作成
2024/6/30	2.0	・第 2 版を作成